

第67回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1997年10月17日（金）11:15～12:00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員
フランス放射性廃棄物管理機構（ANDRA）会長
アレーグル・モーリス氏
在日仏大使館原子力担当参事官
ジーン・ジャック・ラヴィンニュ氏
原子力担当参事官補佐 長谷川
（事務局等）池本専門委員
廃棄物政策課 森山、岡谷、橋本
原子力調査室 松澤、杉本、新井、中山

4. 議 題

- （1）フランス放射性廃棄物管理機構（ANDRA）アレーグル会長との意見交換
- （2）原子力委員会参与の任命及び専門委員の変更について
- （3）その他

5. 配布資料

- 資料1 第66回原子力委員会定例会議議事録（案）
- 資料2-1 原子力委員会参与の任命について（案）
- 資料2-2 原子力委員会専門委員の変更について（案）
- 資料3 第34回「原子力の日」記念行事・広報

6. 審議事項

- （1）フランス放射性廃棄物管理機構（ANDRA）アレーグル会長との意見交換

第6回日仏原子力専門家会合に参加のため来日中のフランス放射性廃棄物管理機構（ANDRA）会長 アレーグル氏より、ANDRAにおける放射性廃棄物地層処分研究のための地下研究所の建設候補地選定状況等について説明があり、委員より、

- ①地下研究施設の建設候補地誘致に関する住民投票は、条件がそろえば最終処分場になり得るということを地元を理解してもらった上で投票を行ったのか
- ②本件のような問題は進めて行くには時間がかかる。「長期的な中間貯蔵」、「深地層処分」、「群分離・消滅処理」の3つの研究は双補的なものと考えますが、この3つの研究の連絡調整は行っているのか
- ③スーパーフェニックスが止まることにより、消滅処理研究が影響を受けたのか
- ④仏原子力庁においては基礎研究一般を行い、ANDRAや仏電力公社においては地層処分研究などの具体的なプロジェクトを進めている。群分離、消滅処理などの長期的な基礎研究が進めば、それが地層処分などに反映されると理解してよいのか

との質問があった。これに対し、アレーグル氏より

- ・（①に対し）条件がよければ将来的には最終処分場になり得ることは知らせているが、もちろん現在のところは研究所建設として進めている。仮に科学的には最終処分場になり得る場合であっても、自動的に処分場になるものではなく、

再度地元との調整等、必要な手続きを経た上で最終的には国会で決定されることになる

- ・（②に対し）そのとおり。三つの分野で並行して評価委員会において検討が行われており、毎年、進捗や成果報告がなされている。また時間の問題については、本件は確かに時間がかかる問題だが、十分時間をかけ、しかし時間をロスせず進めていくことが必要。重要なのは次世代に対して責任をもち、現在できる限りの方策をとることである
- ・（③に対し）スーパーフェニックスの停止は単に経済的な理由によるもの。清浄処理研究についてはスーパーフェニックスを用いた研究もあったが、代替する研究により補えるものと思われる
- ・（④に対し）現在はそのノウハウがなく、現時点ではコメントできないが、将来に備え、情報の交換等を行っている

との発言があった。

（２）議事録の確認

事務局作成の資料１第５６回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。

（３）原子力委員会参与の任命及び専門委員の変更について

標記の件については、人事案件のため非公開で審議することとした上で、事務局より資料２-１及び資料２-２に基づき、説明がなされ了承された。

第67回原子力委員会臨時会議の議事録について（お知らせ）

平成9年10月21日

原子力調査室

10月17日に開催された標記会合の議事録について、本日の原子力委員会で審議された結果、原案（本日の原子力委員会の資料1）を一部修正の上、別紙にて確定されましたので、お知らせします。

第67回原子力委員会臨時会議議事録

1. 日 時 1997年10月17日(金) 11:15～12:00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員
フランス放射性廃棄物管理機構(ANDRA) 会長
アレーグル・モーリス氏
在日仏大使館原子力担当参事官
ジーン・ジャック・ラヴィンニエ氏
原子力担当参事官補佐 長谷川
(事務局等) 池本専門委員
廃棄物政策課 森山、岡谷、橋本
原子力調査室 松澤、杉本、新井、中山

4. 議 題

- (1) フランス放射性廃棄物管理機構(ANDRA) アレーグル会長との意見交換
- (2) 原子力委員会参与の任命及び専門委員の変更について
- (3) その他

5. 配布資料

- 資料1 第66回原子力委員会定例会議議事録(案)
- 資料2-1 原子力委員会参与の任命について(案)
- 資料2-2 原子力委員会専門委員の変更について(案)
- 資料3 第34回「原子力の日」記念行事・広報

6. 審議事項

- (1) フランス放射性廃棄物管理機構(ANDRA) アレーグル会長との意見交換

第6回日仏原子力専門家会合に参加のため来日中のフランス放射性廃棄物管理機構(ANDRA) 会長 アレーグル氏より、ANDRAにおける放射性廃棄物地層処分研究のための地下研究所の建設候補地選定状況等について説明があり、委員より、

- ① 地下研究施設の建設候補地誘致に関する住民投票は、条件がそろえば最終処分場になり得るということを地元を理解してもらった上で投票を行ったのか
- ② 本件のような問題は進めて行くには時間がかかる。「長期的な中間貯蔵」、「深地層処分」、「群分離・消滅処理」の3つの研究は相補的なものと考えますが、この3つの研究の連絡調整は行っているのか
- ③ スーパーフェニックスが止まることにより、消滅処理研究が影響を受けたのか
- ④ 仏原子力庁においては基礎研究一般を行い、ANDRAや仏電力公社においては地層処分研究などの具体的なプロジェクトを進めている。群分離、消滅処理などの長期的な基礎研究が進めば、それが地層処分などに反映されると理解してよいのか

との質問があった。これに対し、アレーグル氏より

- ・ (①に対し) 条件がよければ将来的には最終処分場になり得ることは知らせているが、もちろん現在のところは研究所建設として進めている。仮に科学的には最終処分場になり得る場合であっても、自動的に処分場になるものではなく、

再度地元との調整等、必要な手続きを経た上で最終的には国会で決定されることになる

- ・（②に対し）そのとおり。三つの分野で並行して評価委員会において検討が行われており、毎年、進捗や成果報告がなされている。また時間の問題については、本件は確かに時間がかかる問題だが、十分時間をかけ、しかし時間をロスせず進めていくことが必要。重要なのは次世代に対して責任をもち、現在できる限りの方策をとることである
- ・（③に対し）スーパーフェニックスの停止は単に経済的な理由によるもの。消滅処理研究についてはスーパーフェニックスを用いた研究もあったが、代替する研究により補えるものと思われる
- ・（④に対し）現在はそのノウハウがなく、現時点ではコメントできないが、将来に備え、情報の交換等を行っている

との発言があった。

（２）議事録の確認

事務局作成の資料１第６６回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。

（３）原子力委員会参与の任命及び専門委員の変更について

標記の件については、人事案件のため非公開で審議することとした上で、事務局より資料２-１及び資料２-２に基づき、説明がなされ了承された。